公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構（ファルマバレーセンター）
稲葉大典

（公財）ふじのくに医療城下町推進機構の稲葉と申します。何やら不思議な法人名でありますが、私どもは静岡県が推進する地域振興施策の一つ「ファルマバレープロジェクト」を推進するための中核支援機関として位置づけられております。プロジェクトの詳細につきましては「れんけい」4 号で触れさせていただいたため、ここでは割愛させていただきます。

このプロジェクト推進にあたる機関として、長年ファルマバレーセンターという呼称で親しまれてきた背景があり、今でも法人名よりも屋号と言いましょうか、このファルマバレーセンターという名称の方が通りの良い状況がございますので、ここでも法人名ではなくファルマバレーセンターと呼ばせていただきます。

職員の人数は年度によって若干の変動はあるものの概ね 30 余名でありまして、プロパーの職員の他、県・市町からの出向者や地域の金融機関からの派遣職員等によって構成されております。部署は事業推進部、治験推進部、総務部、施設部で構成され、最も多い人員を配しているのが事業推進部であり、全職員のおよそ半数が事業推進部に所属しております。同部では静岡県立静岡がんセンターを中心とした医療現場のニーズ、地域企業や学術機関等のシーズを収集し製品化の支援をさせていただくほか、静岡県立大学薬学部や静岡県環境衛生科学研究所と連携した創薬探索事業等を行っております。治験推進部では製薬企業等からの依頼を受け、県内でネットワーク化された 28 の拠点病院と連携した治験実施の窓口を果たすほか、治験に携わる医療現場の方々に向けたセミナー等も企画・実施するなど人材の育成にも力をいれております。このほか、総務全般を担う総務部、施設管理と施設に入居されている企業様のサポートを司る施設部がございます。

また、近年では超高齢社会の課題にも注目し、過去の成果やノウハウを活かした新たなプロジェクト「健康長寿・自立支援プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトでは医療現場だけでなく、介護・福祉分野や家庭環境までを視野に入れ、様々な場面で想定される課題の解決に向けた製品やサービスの開発支援、情報提供を行って参ります。一例をお示ししますと、未来の住空間を考えるモデルルームをファルマバレーセンター内に設置（令和 3 年 3 月）し、住宅メーカーはもちろん、医療・介護・福祉の現場で働かれている方々や行政、そしてものづくり企業の皆様など、様々な分野の方々で意見を出し合う「共同研究室」が動きはじめました。正解も完成もないこのモデルルームをご覧いただき、社会課題解決のヒントを見出していただければ幸いです。

ほか令和元年には、隣県であります山梨県と医療健康産業政策に関する連携協定を締結し、両県の持つ強みを互いに活用する環境が整いつつあります。この動きは国からも評価

をいただき、内閣府の定める総合特区に静岡県、山梨県の二件が連携した取り組みが認められております。

結びに、いずれの事業推進におきましても正に『連携』が大きな鍵となると痛感しております。皆様とのご縁に感謝するとともに、今後ともお力添えを賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。